

○クリアミン配合錠 [内]

【重要度】★★★【透析患者に投与禁忌】 【一般製剤名】エルゴタミン酒石酸塩＋無水カフェイン＋イソプロピルアンチピリン ergotamine tartrate anhydrous+caffeine+isopropylantipyrine 【分類】頭痛治療剤

【単位】○A1.0/▼S0.5

【常用量】頓用：1回1～2錠（1回1錠なら1日2～3回まで）

【用法】頓用のみ（最高1週間10錠処方まで）

【透析患者への投与方法】麦角中毒を起こすおそれがあるため禁忌（1）

【保存期CKD患者への投与方法】麦角中毒を起こすおそれがあるため腎障害があれば禁忌（1）

【特徴】配合錠A1.0には1錠中、エルゴタミン酒石酸塩1mg、無水カフェイン50mg、イソプロピルアンチピリン300mg含有。エルゴタミンは血管を収縮させることにより頭痛を除去する。

【主な副作用・毒性】末梢虚血、頭痛、嘔気・嘔吐、ショック、SJS・TEN、血球減少、不眠・不安など

【モニターすべき項目】血圧、ECG、四肢末端の観察および脈拍の触診

【吸収】エルゴタミンは緩徐で不完全、患者間に吸収のばらつきがある。カフェインの同時投与により吸収速度、吸収率ともに上昇する（U）

【F】エルゴタミンは初回通過効果を受け低下する（U）

【代謝】エルゴタミンは肝でのみ代謝される。初回通過効果も受けやすい。数種の代謝物に活性がある（U）

【排泄】エルゴタミンは主に肝代謝により消失し代謝物として胆汁（糞便中）に排泄（U）尿中回収率4%で未変化体は排泄されない（U）

【蛋白結合率】93～98%（U）

【分布】エルゴタミンは乳汁中に分布する（U）

【MW】エルゴタミン酒石酸塩1313.41，無水カフェイン194.19，イソプロピルアンチピリン230.31

【透析性】エルゴタミンは透析で除去される（U）という報告もあるが、蛋白結合率が高いため、除去されにくいと考えられる（5）

【TDMのポイント】TDMの対象にならない

【効果発現時間】60～70min（U）【最大効果発現時間】個人差があるが、普通1～2hr、人により5hr（U）

【禁忌】妊婦、心血管障害、末梢循環障害のある患者は禁忌。長期投与中、急に中止すると頭痛を中心とする禁断症状を呈することがあるので、長期連用は避ける。本剤はピラゾロン系薬剤（スルピリン、アミノピリン等）に対し過敏症の既往歴のある患者に投与しないこと。

【更新日】20180416

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。